

一億人の戦後史 昭和20年代 講和後編

特別寄稿 野坂昭如 日本人の「思考停止」を叱る

ザ・毎日

大正11年3月31日創刊
2015年1月25日発行 第94巻第3号 通巻526号
毎週火曜日発行(1月13日祝)

1.25号

定価 380円

嵐

in 東京ドーム
グラビア

要介護度判定を 下げない「秘策」

秋からあなたにも通知が…
「マイナンバー」
パニックが始まる

「1.17」阪神・淡路大震災
神戸・人情商店街
20年の光と影

ワイド
特集

天皇陛下

「平和メッセージ」を聞き明かす

たかじん騒動

名誉毀損で訴えられた「元弟子」の反撃…ほか



幸せな老後への一歩

第416回

今年4月から、介護報酬が大幅に引き下げられそうです。

予算編成に向けた基本方針では、苦しい財政状況を鑑み、社会保障費をできるだけ抑制。前面に「効率化・適正化」を押し出して、「極力全体の水準を抑制する」と記載されました。

消費税を上げたら、それが社会保障にまわり、よいサービスを受けられるというのは幻想に終わりそう。

以前、このコラムでも書きました。介護の現場では、正規職員の平均賃金が月額20万7795円。全産業の労働者給与の平均が29万7700円ですから、全産業平均の約7割です。しかも、40代以降の人が多い業界です（全労連調べ）。

しかもこの低い給料が、さらに介護報酬の引き下げで下がるので

すから、若い人たちはなかなか選択しにくい職業となっています。

そんな中、少しでも努力した人が報われる制度にしようかと頑張っている若者もいます。

現在、三鷹市、武蔵野市、小金井市（東京都）に三つのデイサービス（東京都）の事業所を持ち、介護事業のコンサルタントもしている辻川泰史さん（37歳）。

介護を夢の持てる職業にしようとする人金勘定だけでなく心ある政治を現場にも

募集しても、応募が少ないのが介護現場の現状ですが、辻川さんの事業所には、応募者が全国から来ています。

なぜ、これほど成果があるかといえ、辻川さんが発信している「はつぴくライフ」(<http://hi-tokyo.com/>)のホームページを見るとわかります。社長である辻川さん

の考え方、スタッフの日々の仕事、工夫、利用者の様子などが、文字だけでなく動画でも見られるようになってきました。さらに、少しでも給料を上げて、介護の社会的ステータスを向上させたいという辻川さんの熱意が、ブログからも伝わってきます。

「僕は、高校の時に介護の仕事を志してから、この道一筋。今、全国には3万7000近くのデイサービス事業所があつて、数ではコンビニと同じくらい。そこで差をつけるには、僕らの事業所がどんなところで、どんな志で運営されているのかを、まずは皆さんに知ってもらおうと大切にしています」

デイサービスは、10人の利用者に対してスタッフの人員配置基準は3〜4人。ただ、認知症で徘徊する方などがあると人手がかかるので、スタッフを増やすという人的対応をする事業所が少なくありません。けれど、そのぶん1人当たりの報酬も下がります。「人を増やさない仕事は大変で

すが、でも、そのぶん給料が増えればやりがいになる。いかにサービスの質を低下させずに、合理的に満足のいく介護を提供できるかで、僕も現場のスタッフも、日々、突き詰めて考えています。経営者の真剣さは、スタッフにも通じるし、日々、成長しているという実感にもなる」

辻川さんは、現在、JR中央線三鷹駅前で、フィットネスジムも経営しています。一般的なフィットネスジムのほかに、要介護状態になっても、しっかりと身体を鍛えて元気でいられるような指導もシニア向けにしています。

「離職率が高いのは、給料が安く夢がないから。介護の仕事でも頑張ればそれなりの生活ができる！僕たちがそのモデルとなり、変えたい」

辻川さんのような人たちに、介護の現場を変えていってもらいたいと思ういつつ、国が「効率化・適正化」を前面に介護報酬をどんどん削っていく現実、多くの事業所のサービス劣化につながる可能性が、金勘定だけでなく、心ある政治を、介護の現場にも望みたいものです。